

企画展 「サムライ、浮世絵になる！ 鳥文斎栄之展」

千葉市美術館 24.01.06～02.04 （会期中に大幅な展示替え）



「鳥文斎栄之」（ちょうぶんさいえいし）（または「細田栄之」）（1756～1829）は、江戸時代後期の「浮世絵」黄金期に「喜多川歌麿」と並び称され、浮世絵版画が華やかに展開するなか、長身で清らかな美人画様式を確立し、豪華な「続絵」を数多く手がけており、その後「肉筆画」中心に活躍をした。

本展は、「ボストン美術館」や「大英博物館」からの里帰り品を含めて、初公開となる《和漢美人図屏風》や豪華な大判錦絵3枚続《貴婦人の舟遊び》など「錦絵」、「肉筆画」の名品が展示されている。さらに、画伯ならではの清らかな「美人画約160点」を一堂に集め、画伯の初期から晩年にいたる画業を紹介する世界初の大規模な展示が注目されている。



《貴婦人の舟遊び》 1792～93年頃 ポストン美術館蔵



《畧六花撰 喜撰法師》 1796～98年頃 大英博物館蔵



《若那初模様 丁子屋 いそ山 きちじ たきじ》 1795年頃ポストン美術館蔵